

大正・昭和・平成そして 令和の時代を生き抜く

祝

橋



広島県内の桜の名所の一つ「尾関山公園」から江の川を見下ろすと、目に入るのが祝橋で、尾関山への観光用道路を兼ねています。「祝橋」という目出度い橋名の由来は、初代の木造吊り橋が完成した昭和6年（1931）が、安芸国の支藩である三次藩の初代藩主浅野長治公の入城300周年であったことから、これを祝して命名されたとのこと。当時でも川幅は200mを越えており、橋の長さでみると山口県岩国市の錦帯橋（橋長220m）規模の大きな吊り橋だったようです。

祝橋は江の川と馬洗川、西城川との三川合流点付近に位置し、東側が三次市中心部にあたり、橋の西詰を直進すると国道54号に接するという三次市内で重要な橋梁の一つでした。しかし、20数年を経て老朽化した木造吊り橋は傷みも進み、架け替えが検討されていました。

ちょうど同時期に、広島市安佐北区可部の太田川に架かる太田川橋でも架け替えの計画が進められていました。太田川橋は大正8年の洪水で元安橋・工兵橋などとともに落橋後、大正10年（1921）に太田川で最初に架け替えられた永久橋、トラス工法の橋梁でしたが、昭和32年（1957）河川改修により川幅が広がるため架け換えの必要が生じました。一旦は、廃棄されるはずだった旧橋でしたが、材質も良く、強度も堅固であったうえ、祝橋の架け替え時期と重なったため、2連のトラス桁が移設され、新天地で生まれ変わることになったわけです。（中国地方の土木遺産「太田川橋」参照）

二代目祝橋は、当時の一般的な形式の下路式曲弦プラットトラスで支間長50m、トラス長101mで川幅に合わせて両側にコンクリートガーダーが繋がれています。

架け替えから65年、建設時の大正時代からみると100年を過ぎたこの橋は、広島県管理道路の鋼橋では最高齢となりましたが、これからも地域の発展を見守り続けることでしょう。



昭和34年太田川から架け替えられた祝橋の中央トラス
橋長210.0m 幅員5.5m 最長スパン51.0m トラス長101.1m、支間長50m、2径間RC桁下路2連続曲弦プラットトラス橋単RC桁

位置図



川幅に合わせて太田川橋のトラスの両側にコンクリートガーダーが繋がれた祝橋



内側から見たトラス部分



祝橋の親柱